ボイスドラマ「マイク前に立てっ！」

［登場人物］

＊**高橋　つむぎ**（23歳）［一言イメージ］天然ブルドーザー

一生懸命生きているハムスター的な雰囲気。唯一のメガネっ娘。ただしオシャレセンスはない。ダボダボのカーディガンを愛用。人目をあまり気にしていない性質。空気が全く読めず、的外れな言動が多いため、本人が気づかぬうちに周囲をイラつかせたり、大きな被害を与えている。短大卒業後、声優養成所へ。デビューして半年ほどのフレッシュレモン。

＊**多一　ハル**（たいち　はる）（20歳）［一言イメージ］あざとさ120％

子役からのし上がって来た実力派。業界を熟知しているので、持ち前の可愛らしい容姿をフルに活かしてファン、同業者まとめて男子の強い支持を獲得。女子からは総スカン（本人も女子層は最初から眼中にない）。

0歳から芸能活動をしているため、芝居の実力は折り紙つきだが、そのあざとい言動のせいで全くそう見えない。可愛い反面、キレる沸点は非常に低い。

園部とは共演の機会が多く、直接しゃべることはあまりないが、お互いに実力は認めている。

＊**園部　要**（そのべ　かなめ）（35歳）［一言イメージ］ツンドラ女王

絶対零度の冷たさで、若手の馬鹿騒ぎから距離を置いている芸歴15年の中堅。

冷静沈着のように見えて、感情（特にイラつき）が顔に出やすい。特に要領の悪い人間を見ると殺意を隠そうともしない。

思ったことはズケズケ言ってしまうので、先輩後輩問わず恐れられている。

＊**十条　明日奈**（じょうじょう　あすな）（26歳）［一言イメージ］時代遅れ純情ヤンキー

小劇場に出ていたところを業界関係者に声をかけられ声優デビュー。芸歴6年、声優歴2年半。

超体育会系の思考。正義感が非常に強く、納得できないことは先輩でも噛み付いていく。仕事は真面目な姿勢。

恋愛経験が乏しいため、いまいち恋愛のシーンにのれず悩んでいる。焦ったりすると田舎の方言がでてくる。望月とは何度か共演、年齢が近いこともあり仲がいい。

＊望月 伊織(もちづき いおり)(24歳)[一言イメージ]猪突猛進娘

高校卒業後就職し、働きながら声優養成所に通いデビュー。ジュニアランクが終わり、今後の生き残りをかけた大事な時期に、念願かなって初ヒロインを射止める。

「いつでも120％の自分で！」という傍迷惑なモットーで、何事も全力で取り組み、から回る。つむぎに次ぐ、トラブルメーカー。何事も120％なせいか、落ち込む時も極限まで振り切る。

＊スタッフ(27歳)[一言イメージ]実力派苦労人 ※性別はどちらでも

大学卒業後、好きなアニメに関わる仕事をしたいとアニメ業界に。大学では放送研究会でラジオや声劇を制作していたので、その延長でとある著名なアニメ監督の元で音響監督を務めている(直接監督の事務所に履歴書を持って売り込みにきた根性のあるタイプ)。

好きが高じて飛び込んできたので熱心な仕事ぶり、また過酷な制作現場でも明るさを絶やさない屈強な精神力を買われ、この若さでここまでの地位まできた。

見た目も温和そうで人のいい性格ため、他人にあまり厳しい態度をとることができず、役者と監督やスポンサーの間に挟まれ苦労が絶えない。

1.　初めましてのご挨拶　～第一印象最悪編～

［5人の女性声優］

ナレーション　「都内の某スタジオで、とあるゲームの収録がおこなわれようとしていた。そのゲームとは、発売前にも関わらず、各方面から注目を集めるビッグタイトル。出演声優は大御所から若手まで顔を揃える中で、この物語のスポットライトが当たるのは、5人の女性声優である」

ハル　「たくまさーん、この前アニメ観ましたよー♪あのメンバーの中で主役とか、すごくないですかー？もう映画化も決まっているんですよね？はあ～ハルもあんなアニメのヒロイン演じたいな～。　えーそんな風に言ってもらえて嬉しい～！　あ、ゆうきさん、おはようございまーす♪」

明日奈　「おい、顔真っ青だけど大丈夫か？」

伊織　「うう～緊張する…吐きそう～」

明日奈　「おいおい、そんなんでアフレコできんのかよ？」

伊織　「あたし、もう後ないもん…やり切ってみせる！……おえっ」

明日奈　「おいおい！」

要　「……」

スタッフ　「（スタジオのドアを締めながら）お待たせしましたー。えー『〇〇（架空のゲームタイトル）』初回特典の短編アニメを収録していきます。本編は完全別録りだったので、こうしてキャストさんが揃うのは初めてなんですが、ちょっと今遅れている子がいまして…」

つむぎ　「（スタジオに転がり込むように入室）すみません、遅れました！」

スタッフ　「…これで全員揃いましたね～」

つむぎ　「道に迷ってしまって…本当にすみません！」

明日奈（M）　「なんだよその理由。事前によく調べておけよ…」

ハル（M）　「確かあの子、ど新人でしょ。これで消えたわね」

スタッフ　「じゃあ改めまして、よろしくお願いしますー」

キャスト陣　「お願いしまーす」※ガヤ録り

スタッフ　「尺は10分ちょいの短編なんですが、メインキャストはほぼ出てくるので、かなりわちゃわちゃすると思いますんで、臨機応変に対応していただければと。　とりあえず軽く自己紹介お願いしましょうかね。それじゃあ望月さんから」

伊織　「っは、はいぃ！あ、えっとソフィア役を…」

つむぎ　「ルリア役を演じます高橋つむぎです。今日はたくさん勉強させていただきます！」

ハル＆明日奈（M）　「はあ～～！？」

ハル（M）　「いま望月さんからって言ってたじゃない！その耳飾りなわけ！？」

明日奈（M）　「マイペースすぎんだろこいつ」

要　「……」

スタッフ　「え～と、仕切り直して望月さんからどんどんいっちゃいましょ！」

伊織　「はい！ソフィア役を務めさせていただきます、も、☆〇＜×※でっふ！」

明日奈（M）　「そんな噛み方あるかよ…」

伊織　「う～ずびばぜん…望月伊織です…」

明日奈　「はぁ…。十条明日奈です、フィーアを演じています。よろしくお願いします」

ハル　「は～い！リリーナ担当の多一ハルです♪尊敬する大先輩ばかりで緊張しちゃってますが、一生懸命頑張ります！」

要　「レイズの園部要です。　さっき勉強させてもらう、とか言ってた子がいたけど」

明日奈＆要　「？」

ハル（M）　「あ～きたきた…」

要　「ここは養成所でもなければ、ましてや学校でもないの。仕事現場に学生気分で来られると、周りが迷惑なの。…理解できる？」

伊織（M）　「園部さん厳しいって聞いてたけど、本当に怖い…」

明日奈（M）　「けっ、あのぶりぶり女も気にくわねーけど、こいつの態度も上から目線でいけ好かねえな」

つむぎ　「うんうん、私たちプロですもんね！」
ハル（M）「あんたのことよ！まさか自分が言ったこと、もう忘れてるんじゃないでしょうね？」
要（M）「このガキ…バカにしてるの？それとも…」
つむぎ「今のメモっておこう。ここは学校じゃないっと」
ハル＆明日奈＆伊織＆要（M）「こいつ…アホだ…」
スタッフ「あはは…じ、じゃあ次は男性陣行きましょうか～…」※フェードアウト
※　場面転換のジングル※

［テスト前の嫌な予感］

スタッフ「いま機材の最終チェック中なので、少～し待っててください（スタジオのドアを閉める）」
要「（匂いを嗅いで）…ん？なにこの匂い？」
伊織「なんでしょう、これは…にんにく？」
つむぎ「ごくごく」
ハル＆明日奈＆伊織＆要（M）「なんだろう…すごく嫌な予感…」
明日奈「なあ、それ何飲んでんだ？」
つむぎ「っぷはー、これですか？ガーリックスープです」
ハル＆明日奈＆伊織＆要「はあ！？」
つむぎ「私ガーリックスープ飲むと、喉の調子がすごくいいんです」
ハル「ちょ、ちょっとちょっと！ここ、どこだと思ってるわけ？」
つむぎ「はい？」
伊織「スタジオだよ？」
要「つまりは密閉空間。こんな所でそんな匂いが強いもの飲み食いされたら、匂いが広がって大迷惑なの」
明日奈「暗黙の了解ってやつだろ」
つむぎ「はへーそうなんですねー」
要「…そうなんですね？っあんたいい加減に…」
スタッフ『お待たせしましたー。準備できたので、早速テストいきましょー』

つむぎ　「はい！お願いします！」
ハル＆明日奈＆伊織（M）「不安しかない…」
要　「……」
つむぎ　「みなさん、がんばりましょー！」
ハル＆明日奈＆伊織＆要「お前が仕切るな！！」
※　場面転換のジングル※

2.　テストスタート♪　～阿鼻叫喚編～

［モブのワンマンショー］
スタッフ　『高橋さん、望月さん、十条さん、ちょっとこのシーンの女子生徒もやってくれる？』
つむぎ＆伊織＆明日奈「はい、わかりました」
スタッフ　『じゃいきましょう』
要（M）　「あの子がいるの不安だけど…」
ハル（M）　「このシーンはモブだし、まあやらかしようがないでしょ」

要（レイズ）　「ようやく見つけたぞ、紅蓮の魔女！」
伊織（女子生徒１）「あ、あれは！」
明日奈（女子生徒２）「帝国騎士団長のレイズ様よ！」
つむぎ（女子生徒３）「きゃーレイズ様～！」
要（レイズ）　「よもや帝国一の魔術学園に紛れ込んでいるとは…。ここで会ったが百年目！その首今日こそ落としてくれる！」
ハル（M）　「そろそろ私の出番ね……え？マイクが３本とも埋まってる？なんで！？（つむぎを見つけ）…あいつ～！！」
つむぎ（女子生徒３）「レイズ様ステキ～！」
ハル（M）　「なにモブ１人でマイク１本丸々使ってるのよ！横で他の２人が一緒にマイク使ってんの見えてないわけ！？ああっもう！」
ハル　「（つむぎの肩をたたく）っ」

つむぎ　「(まっすぐ画面を見つめたまま)……」
ハル　「(先ほどより強く肩をたたく)っ！！」
つむぎ　「(凜とした表情で画面を見つめたまま)……」
伊織(M)　「え～！？なんで気付かないの！？」
明日奈(M)　「わざとか？」
要(M)　「どうするの、今から他のマイクに移動している時間なんて…」
ハル(M)　「～～っ！！このクソガキィ～～！！」
ハル　「ふんっ！」
つむぎ　「！」
ハル(リリーナ)　「うふふ、ここまで来るなんて大したものね。いいわ、ご褒美に私の魔術、みせてあげる。出でよ、フレアトーネド！！」
伊織(M)　「マイクと高橋さんの狭い空間に…」
明日奈(M)　「全く音も立てずに滑り込んだ…」
要(M)　「見事ね」
ハル(M)　「こちとら子役からやってんのよ！歴が違うのよ歴が！」
つむぎ　「(ハルの肩を叩く)…」
ハル(M)　「は、なに？」
伊織(M)　「まさか…」
明日奈(M)　「マジかよ…」
要(M)　「キレそう…」
つむぎ(M)　「もうすぐ私の女子生徒なので、どいて欲しいです！」
ハル(M)　「…っだから、モブはあっち使いなさいよ～！！！」
※　場面転換のジングル※

［私を見ないで］

明日奈　「はあ…」
伊織　「次だよね？明日奈ちゃんの主人公を誑かす大人の女性、楽しみ～！」
明日奈　「それ言うなよ…」
伊織　「あ～まだこういうシーン苦手？」

明日奈　「はあ～…」
スタッフ　『じゃあ、次の場面いきまーす』
明日奈(M)　「考えててもしょうがねえ。やるっきゃない！」
明日奈(フィーア)　「あら、可愛いお客さんじゃない。こういうお店は初めて？　うふふ、お姉さんと少～し遊んでみる…ぶちゅう～～～！！(ひどいリップ音)」
要(M)　「なにあれ、リップ音のつもり？」
ハル(M)　「ぶふっ、ギャグアニメかっつーの！相手役も驚いてるじゃない」
伊織(M)　「あちゃ～…」
つむぎ(M)　「ふわぁ～」
明日奈(M)　「みんなの前でこんなシーン…くぅ～恥ずかしいっぺ～！！」
スタッフ　『ちょ、ちょっと全体的に色っぽさがな～特にリップ音、もう少し頑張れる？』
明日奈　「や、やります！」
明日奈(M)　「え～！！もう一回やるっぺか！？」
スタッフ　『じゃもう一回お願いします』
明日奈(フィーア)　「あら、可愛いお客さんじゃない。こういうお店は初めて？　うふふ、お姉さんと少～し遊んでみる…ぶちゅう～～～！！(さらにひどいリップ音)」
要(M)　「はあ…」
ハル(M)　「あははは、ちょっとー！笑いこらえるの大変なんだからね！！」
伊織(M)　「明日奈ちゃん、がんばれ…」
つむぎ(M)　「ふわぁ～」
スタッフ　『…全体的に硬いから、もっとこう自然にやってもらいたいんだけど…』
明日奈　「し、自然…」
ハル　「恋人といる時を思い出してみたらいいんじゃないかなー？」
明日奈　「こいびと…」
伊織　「そ、それはっ…」
スタッフ　『確かにそれならもっと自然さがでるかもね！』
ハル　「今いなくても過去のことでもいいと思うし、」
明日奈　「…っお、オラ！恋人なんかいたことないっぺー！！！」

ハル　「えっ？」

つむぎ　「ぺ？」

伊織　「ああ、泣かないで～！　明日奈ちゃん、お芝居以外で男の子の手も握ったことなくて…」

ハル　「それは悪いことを言ったわね…」

スタッフ　『う～ん、どうしようかな……(ふと要を見て)あー！いるじゃない！エロの伝道師！』

要　「(視線を感じて)…伝道師？なに、私のこと？」

ハル　「確かに園部さんって普段色っぽい役柄多いですし、お手本に最適かも♪」

要　「ちょっと…」

スタッフ　『あんまりいい方法じゃないと思うんだけど、時間あまりないし、園部さんならどうやるかって感じでちょっと演ってみてくれないかな？』

要　「いや、そんなこと言っても…」

明日奈　「(土下座しながら)お願いしますだ！オラに本物の大人のエロスってやつを教えてくんろ！」

伊織　「明日奈ちゃん大きい声でなに言ってるの！」

要　「…わかったわよ。その代わりあくまで参考であって、私の真似してもしようがないわよ」

明日奈　「(涙を拭い)うすっ！」

要　「ふぅ…。あら、可愛いお客さんじゃない」

スタッフ　『おおー…』

伊織(M)　「え、エロい、これだけすでにエロい～！！」

ハル(M)　「ふん、無駄に歳くってるわけじゃないわね」

明日奈(M)　「すげー…これが大人のエロス…。悔しいけど、これが実力の差なのかよっ！！」

要　「こういうお店は初めて？」

つむぎ　「(要を見つめている)じーー」

要(M)　「ん？なんだか視線を感じるんだけど…」

つむぎ　「(要を見つめている)じーー」

要(M)　「こ、この子！なんでわざわざマイク前まできて、私の顔を覗き込んでくるのよ！？」

つむぎ　「(要を見つめている)じーー」

要(M)　「演じている時の顔なんて見られたくないのよ！特にこういうシーンは！！」

つむぎ　「(要を見つめている)じーー」

要　「うふふ、お姉さんと少～し」

つむぎ　「(要を見つめている)じーー」

要(M)　「ちょっと、やめなさいよ…」

要　「遊んでみる」

つむぎ　「(要を見つめている)じーー」

要(M)　「お願いだからやめてーーー！！！」

要　「(リップ音)」

スタッフ　『いや～さすがだな～。なんか最後の方は恥じらいも入ってて、余計に色っぽかったですよ』

伊織　「すごかったです…見ているこっちがぽーっとなっちゃいました」

ハル　「相手役の男の子も顔真っ赤でしたね～」

明日奈　「…っ勉強になりました。ありがとうございますっ！」

要　「いや…別に…」

つむぎ　「本当にすごかったです！どんな風に演じられているのか、思わず見入っちゃいました！」

要　「っ！！」

要(M)　「この子、本当に疲れるっ！！」

※　場面転換のジングル※

［慰めはいらない］

伊織　「ふ～リラックス、リラックス…」

明日奈　「次のシーンだろ？お前の役」

伊織　「うん…」

明日奈　「初ヒロイン、がんばれよー」

伊織　「うううぅ～」

スタッフ　『じゃあ、次のシーンいきまーす』

伊織（M）　「ジュニアランク終わって、これからが本当の正念場…。声優として生き残るためにも、この作品で結果を残さなくちゃ！」

要（レイズ）　「姫様！なぜこのようなところに！？」

伊織（ソフィア）　「勇者さまがいらっしゃると耳にして、急ぎこちらへ参りました。　私はソフィア・フォン・アデラード、お会いできて光栄ですわ」

ハル（リリーナ）　「あ～ら、まさかお姫様がお出ましとは…これってチャンス？」

明日奈（フィーア）「（腰の短刀に手をかけながら）紅蓮の魔女だか知らないけれど、命が惜しければ姫様の前で妙なことはしないことね？」

つむぎ（ルリア）　「あわわわ、勇者さまどうしましょ～！人が集まってきちゃいました～！！」

伊織（M）　「次はこの話の最後の台詞…ここから冒険がはじまる大事な台詞！力強く勇者さまに届けなきゃ！！」

伊織（ソフィア）　「勇者様、お願いがあります。どうか、私をあなたの旅に連れていっぷふっ！」

明日奈＆要＆ハル（M）「ええ～～～！？」

スタッフ　『だ、だ、大丈夫！？』

伊織　「（鼻を押さえながら）す、すみません…！」

明日奈　「おい、怪我は！？」

ハル　「うわ～痛そう～」

要　「マイクの方は大丈夫！？」

明日奈　「おい、マイクの心配が先かよ？」

要　「あのね、これ一本いくらすると思ってるの？あんたたちの稼ぎじゃ、とても弁償できないわよ」

明日奈　「あんだと…」

伊織　「すみません！すみません！テスト止めちゃってっ…」

スタッフ　『マイクは大丈夫そうだし、望月さんに怪我がなかったのならよかったよ～』

伊織　「うう～～」

つむぎ　「望月さん、お顔大丈夫ですか？」

伊織　「高橋さん…」

つむぎ　「あんな風にお芝居中にマイクにぶつかるなんて見たことも聞いたこともないからビックリしちゃいました」

伊織　「うぐっ！！」

つむぎ　「ラストの大事な台詞でしたし」

伊織　「ぐはっ！！」

つむぎ　「マイクが見えなくなるくらい真剣だったって…あれ？伊織さん？」

伊織　「…もうダメだ……私みたいなゴミくず人間、このまま干されて…あいつ最近見ねえな、なんて過去の人になっていくんだ…ぶつぶつ……」

明日奈　「お前余計なことを…」

つむぎ　「私なにか余計なこと言っちゃいましたかね？」

明日奈　「このモードになったらなかなか戻ってこないんだよ…」

要　「はあ…大して時間経ってないはずなのに、どっと疲れたわね…」

ハル　「本当に…」

スタッフ　『じ、じゃあこれから細かい修正をお伝えするんで、その後休憩入れて本番いきましょうかね』

明日奈＆ハル＆要　「！？」

明日奈（M）　「そうだ、まだテストだった…」

ハル（M）　「これから本番…」

要（M）　「このメンツで…」

つむぎ　「はーーい！」

明日奈＆ハル＆要（M）「冗談でしょーーーー！？」

伊織　「どうせ私なんて……」

ナレーション　「はたして無事に本番を乗り切れるのか、彼女たちの運命やいかに？次回『本番スタート！～地獄絵図編～』。次回が果たして本当にあるのかどうかも含めて、お楽しみに！」

（終わり）